

教師人生を通して指針となった 鋭くも温かい恩師の存在

山形県 山形市立第四小学校校長 鈴木弘康 SUZUKI HIROYASU

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、鈴木校長が語る。

「いい授業だった」
心に染み込んだ評価の言葉

新採で赴任した複式学級の小学校に5年間勤めた後、小さな町の小学校に異動しました。赴任後すぐに3年生理科の研究授業を担当することになりましたが、経験が浅い上に前任校がへき地の小規模校だったため、私の授業力を不安視する先生もいました。見返したいという思いもあり、毎日遅くまで指導案や教材を考えました。子どもが試行錯誤しながら学ぶ「自由試行」という方法で、一人ひとりが自由な発想を生かして

風車を作る授業を考えました。

当日、子どもたちは誰よりも勢いよく回る風車を作ろうと、生き生きと活動していました。授業の終盤、風車の軸を持つ子どもから「しびれる」「くすぐったい」という言葉が出た時、授業の成功を確信しました。最も伝えたかったエネルギーの概念を体感したことから出た言葉だと思ったからです。

ところが、事後研究会では先輩方の厳しい指導に圧倒されてしまいました。落胆してトイレに行くと、上村隆一校長が入って来て隣に並びました。私は思わず、「あんな授業で



1974 (昭和49)

新採として戸沢村立角川小学校に赴任。上沢分校に3年、本校に2年勤務

1979 (昭和54)

舟形町立舟形小学校に赴任。上村隆一校長と出会う



職員室でストーブを囲んでの何げない会話から学ぶことも多かったという(左端が鈴木先生)

1983 (昭和58)

山形大教育学部附属小学校(現山形大附属小学校)に赴任

2004 (平成16)

山形市立蔵王第二小学校に校長として赴任

2008 (平成20)

山形市立第四小学校に赴任

すずき・ひろやす 教諭時代は「授業が楽しければ子どもは集中する」という信念で教材研究を徹底した。舟形町立舟形小学校、山形大教育学部附属小学校、山形県教育庁義務教育課課長などを経て、2008年、山形市立第四小学校に着任。

すみません」と謝っていました。その時、上村校長から掛けられた言葉が今も忘れられません。

「いい授業でした。子どもたちは自作の風車で『風の力』を実感していましたね」

私が意図した授業のねらいを理解し、評価して下さったのです。努力が報われたという気持ちになり、自信を取り戻すことが出来ました。

上村校長は、少し変わった経歴をお持ちでした。台湾に生まれ、医専（後の医学部）を目指していたものの敗戦を迎え、帰国して師範学校に入り英語教師になられたそうです。とても穏やかな人柄で、どこか哲学者のような風格があり、いつも分かりやすい言葉で、しかし急所を突くような助言をされました。上村校長は「教育の根底には『畏敬』がある」と話されていましたが、まさにその言葉を体現するかのように、誰からも畏敬の念を抱かれる校長でした。

上村校長は新任の私に多くの仕事を任せてくださり、新たに導入する学校裁量の時間の企画を担当しました。私の不安を察したのでしょう。「君が提案すれば、先生方はきっと賛成するよ」と勇気づけてください

ました。しかし、上村校長から具体的な指示はなく、一から方向性を考える必要がありました。先生方の多くは、全校の合奏活動をテーマにする考えでしたが、私は「もっと子ども創意を引き出せるテーマはないだろうか」と検討を重ねました。

ヒントを求め、子どもと一緒に学校の横にある河原を歩いた時のことです。流木を指さし、「恐竜に見える」と言った子どもがいました。その瞬間に発想が広がり、全校児童が縦割り班で流木を集め、体育館で「恐竜展」を開く活動を企画しました。保護者や地域住民を招いて盛大に行い、活動は大成功に終わりました。

あえて具体的な指示をせず、教師の考えを尊重するのが上村校長のやり方でした。進むべき道を示し、自分の足で歩くように促してください。上村校長のような恩師に出会えたことは本当に幸運だったと思います。

本来の自分を出そうと 努力する先生を支えたい

その後も多くの先生との出会いがありました。教科指導や学校経営について貴重な教えをいただいた先生もいます。不思議なことに、上村校

自分の立ち位置を見つけ 自分を表現する努力が大切



長から何を学んだのかと問われると、具体的な言葉が出てきません。出会いから現在に至るまで、上村校長という存在そのものを鏡にして、「教師とは、管理職とは、どうあるべきか」を考え続けてきた気がします。それほど人間性の深い部分で影響を受けたのが上村校長でした。

昔に比べて先生方が忙しくなり、管理職が教師の力を伸ばすのが難しくなったと思います。だからこそ私は、上村校長がそうして下さった

ように、先生が本来の自分を出せる学校にしたいと考えています。特に若い先生には、職場に適応するだけでなく、自分の立ち位置を見つけ、自分を表現する努力をしてほしい。そのための支援は惜しみません。

教師にとって、人間として、若い日に本当の意味で人とつながる経験はとても大切なことです。私自身がつながりを求められる先輩になれるよう、上村校長に学んだことを実践し、伝えていきたいと思っています。